

「ALH」はプラスチックを燃えにくくする【難燃剤】です

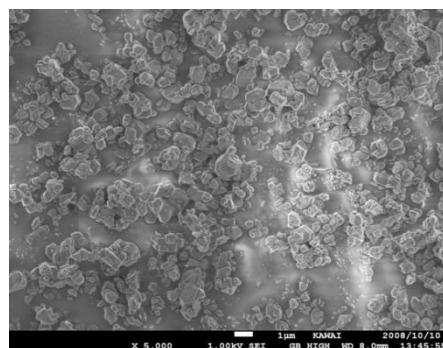
開発者名 河合石灰工業株式会社

質材分類

ご存知のようにプラスチックは、軽い割に強く、成形加工しやすく、絶縁性があり、安いといった優れた素材です。しかし、その多くは石油から作られるため、燃えやすいという欠点があります。ですのでプラスチックには、【難燃剤】が配合されています。【難燃剤】はその名の通り、燃え難くする薬剤です。代表的な【難燃剤】には、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、ベーマイトなどがあります。

プラスチックは、電子材料や LED、自動車などに使われるため、これに使われる【難燃剤】にも耐熱性や耐薬品性が求められています。「ALH」は、これらの特性をバランスよくあわせ持つ【難燃剤】です。水酸化アルミニウムより耐熱性があり、水酸化マグネシウムより耐薬品性があり、ベーマイトより難燃化する力が強い。我々は、更なる特性バランスをめざし、【難燃剤】の開発にチャレンジし続けています。

	ALH	Al(OH)3	Mg(OH)2	ハロゲン・リン系
耐熱温度 (脱水温度域)	○ 260~280°C	✗ 200~240°C	◎ 320~380°C	—
脱水量 (難燃効果)	○ 32~34.6%	○ 34.6%	△ 31%	◎
耐薬品性	○	○	✗ 酸に弱い	—
環境負荷 火災時の発煙	○	○	○	△~×



参考文献

—